

戦没者の遺骨と遺品を遺族に返還を求める請願

戦没者悼まず戦後終わらぬ

全国署名運動を

若者を再び戦場に送るな

平和の灯

題字 津留崎尚
 戦没者を慰霊し
 平和を守る会発行
 〒849-0112
 佐賀県三養基郡北茂安町
 大字江口7561
 塩川総合企画(株)内
 発行責任者 塩川正隆
 電話 0942-89-9280
 F A X 89-9281
 e-mail:senbo-peace@senbotsusya.com
 http://www.senbotsusya.com

戦後五十八年が経過しました。しかしながら、全戦没者の約半数(海外では約八割の一六万人)の遺骨が放置されています。それにもかかわらず、厚生労働省は平成十四年度厚生労働白書で「南方方面の遺骨収集はおおむね終了した」と述べています。

南方では、今でも農作業や家の改築中に遺骨が発見されております。沖縄では遺骨と遺品が同時に発見されたにもかかわらず、その後十年近く放置されたままになっています。日本の遺骨収集は昭和二十八年の閣議決定、「太平洋戦争による海外戦没者の遺骨収集については、関係国の了解を得られる地域より逐次実施している。」によって始められましたが、国交がある国でも相手国の了解が得られないという理由によって放置され、現在も野ざらしの遺骨が無数にあります。

今年度から収集遺骨にもDNA鑑定が行われることになりましたが、その地域は主にシベリア方面でしかも個体化している遺骨に限られています。



帰還を待つ遺骨フィリピンレイテ島

激しい戦闘が行われた南方の戦場で六十年近く経った今日、個体化している遺骨の発見はますます困難となっています。また、国内に持ち帰られ身元がわからない遺骨は千鳥が淵墓苑に埋葬されますが、千鳥が淵墓苑は「墓地埋葬法」による許可がなく違法と思われる状態が続いています。

戦時中、戦没者の多くの遺品が戦場より戦利品として持ち去られました。これらの中にはインターネットオークションで販売されるといふまことに心の痛む実情もあります。

このように、国のために尊い命を捧げた方々への戦後処理を放置しておきながら、日本はアメリカの要請を受けイラク復興の名を借りて、自衛隊のイラク派遣を決定し戦争への道を走り始めました。あの戦争でなぜ多くの若者が犠牲になったのか、不戦の誓いはどうなっているのか、今回の決定は理解できません。

戦没者追悼式では毎年「国の繁栄は戦没者の尊い犠牲があったから」と言われますが、この言葉と現実とはかけ離れすぎたおとろけです。戦没者遺族も高齢になってまいりました。日本政府が現実を直視し、一日も早く戦没者の遺骨と遺品を遺族の元へ返還させるために、次の諸事項の速やかな実現を要求するものです。



日本もアメリカと同じ先進国です。アメリカで出来て、日本は何故できないのか、これこそ問題であり超党派で解決していただきたいと思っております。

- ### 請願項目
- ① 戦没者の遺骨収集及び遺品返還活動の再点検し「遺骨の搜索収集」を行うための法案をつくること。
 - ② 全戦没者遺影の保存及び遺族のDNAデータベース化を行い、収集遺骨はすみやかに遺族に帰す措置を講じること。
 - ③ 千鳥が淵墓苑の違法と思われる状況を改め、国立墓地を建設すること。
 - ④ 外交努力により全ての戦地(中国・北朝鮮・インド・インドネシア・ウズベキスタン等)でも遺骨収集が行えるようにすること。
 - ⑤ 新たな戦争(イラク戦争)に自衛隊を派遣しないこと。

超党派で戦後処理に国家責任を

超党派で靖国神社に参拝する国会議員の方々がおります。私人として靖国神社を参拝し戦没者に感謝し不戦の誓いをなされるのは、遺族にとってもありがたいことかもしれません。しかし、公人(国会議員)として、もっと大切な戦後処理という国家責任をはたして頂きたいものです。

アメリカには「チルハイ」という国の遺骨収集のチーム(二五〇人)があります。医学、登山の専門家たちが携わり、アメリカ兵は身元不明の遺骨は無いと言い切る専門家さえいます。日本政府が「現地の国民感情が許さなければ収集不可能」と言っている北朝鮮や中国の遺骨収集も当然行っています。

戦争を風化させることなく、若者の死を無駄にしないために

日本政府のイラクへの自衛隊派遣決定により、日本は再び戦争への道を歩みはじめました。

小泉首相は国会で、「イラクはどこが危険地帯なのか私にわかるわけ無いじゃないですか」と答弁しました。

この答弁を聞くと、今回派遣される自衛隊員の方々は、戦時中「二銭五厘の召集札状」と引きかえに戦場に送られ、国の犠牲になった当時の若者の感があります。派遣される方々にも残される肉親がいます。小泉首相や国会議員にも肉親はおられますが、他人事で無く、自分事として考えられるなら、このような決定は無かったのではないのでしょうか。

日本政府は、左記の表にもあるように、戦後五十八年が経過した今日でも戦没者の半数(南方方面では約八割、一六六万人)の遺骨を放置したまま「おおむね終了」と終息宣言を行いました。多くの若者の死は何だったのか、無責任としか言いようがありません。

私たちは、このように国家責任を果たさないまま新たな戦争に若者を送ることに反対します。多くの国民の皆様のご支援とご協力をお願いします。

地域別戦没者概数及び帰還遺骨数 (平成13年度 厚生労働省調べ)

地域	戦没者概数	帰還遺骨概数	残存遺骨概数	遺骨収集回数	慰霊巡回数
旧ソ連・モンゴル含む	54,400	13,460	40,940	93	65
中国北地方・旧満州	245,400	39,050	206,350	3	19
中国本土	495,700	438,470	27,230	2	0
アッツ島・アリウシヤン列島	24,400	1,680	22,720	11	9
インド	30,000	19,940	10,060	4	8
ミャンマー	137,000	91,360	45,640	11	9
マレーシア・タイ	21,000	20,200	800	7	0
インドネシア・スマトラ	31,400	11,020	20,380	5	7
西ニューギニア	53,000	31,920	21,080	4	4
東ニューギニア・ソロモン	118,700	55,480	63,220	24	12
ベトナム	12,000	6,910	5,090	4	8
フィリピン・台湾	518,000	132,730	385,270	29	17
トラック・ルソン	127,600	49,160	78,440	15	11
マリアナ諸島・サイパン・グアム	247,000	72,240	174,760	50	31
沖縄	186,500	185,250	1,250	55	4
硫黄島	20,100	8,240	11,860	43	6
その他の地域	107,800	58,790	49,110	7	4
合計	2,400,000	1,235,900	1,164,100	367	214

戦争の大義であった「大量破壊兵器」はどこにいったのか、アメリカ追隨の日本政府の本音を日本国民が早く見抜けばよいが。

